

## 日立市初！木造で五感を育む小中一貫校

## 中里小中学校建築工事



豊かな自然に囲まれた落ち着きのある環境の中で、地域の中心となっている中里小学校・中学校。旧校舎の老朽化に合わせ、学びの質の向上や地域の方々との交流をより一層深めるため、小学校・中学校を統合。日立市初の小・中一貫校として建設された。

校舎の平面形状は中里地域の山並みと調和するように円弧となっており、見る角度により様々な表情を浮かべる。

また、3棟の木造と2棟のRC造(耐火構造)を組み合わせる事により、木造の構造材を現し※1にすることが可能となった。外装の仕上げ材にも多くの木材を使うことによって、温かみと優しさがある教育環境を実現した学校施設となっている。

※1 現し：構造材が見える状態のまま仕上げる手法のこと



校舎全景



マルチスペース+特別教室エリア



普通教室



昇降口+図書室

多目的に利用可能なマルチスペースを設置し、多様な授業、ランチルーム、全校集会、地域開放などに活用

普通教室は、2つの教室を共有スペースで繋げることで通路導線をなくし、快適性を高めている

昇降口と図書室が隣接。子供たちが本当に囲まれ登下校することで、親しみを持てる空間に

## 担当者の声

本工事は、隣接している中学校と交流センターを運営しながら、同じ動線を利用しての工事であったため、安全な動線の確保や施工手順の検討を徹底して行い、関係者、先生方と密に情報を共有することにより、安全に施工することができました。

建物は大規模な木構造建築であったため、1,000本に及ぶアンカーボルトが必要となっただけでなく、平面形状が扇形であるため、屋根・天井・床などもすべてが放射状に配置されることで、座標位置の管理など、高い施工精度が要求されました。

また、木材を現しで仕上げるため、雨天時の木材の管理、数多くの接合金物の管理など、苦労した点は多々ありました。

しかし、大変貴重なこの経験は、今後益々需要が増加するであろう木構造建築の工事に大いに役立っていくと期待しています。

